

## 「三〇」熟語⑧三毒

企業経営漫談士 岡野実空

仏道でいう「三毒」とは、私たちの心身を煩わせ、悩ませる煩惱の代表「貪瞋痴」、すなわち「貪欲」「瞋恚」「愚痴」のこと。それはときに個人の内に止まらず、所属する集団、あるいは社会にも大きな影響を及ぼします。ここでは「経営」に関する「三毒」の原因と、その対処法を考えます。

### その1: 「貪」 貪欲

「貪欲」とは、自己の欲するものに執着して、非常に欲が深いこと。「経営」に絡み、その良い代表が「知識」なら、対極にあるのは「利益」です。

いまその転身が目立つのは、欧米。科学技術によって産業革命を起こし、いち早く「成長」のコツをつかんだ彼らは、その果実である「資産」の額を主とし、人や組織をランキングして来ました。ところがその上昇のために絞ってきた「知恵」が、前世紀後半から「節(脱?)税」などのあらぬ方向に行き過ぎ、もはや看過できないレベルに到達。そしてその反省から、社会を構成するより多くの人の生活や活動の維持、またその大前提となる地球環境の保全に向け、大きく舵が切られたのです。

しかし古より、「知足」の大先達たちが棲む地は、我が亜細亜。従って「貪欲」に吸収すべきなのは、天竺由来の「知恵」なのです。「欧米」およびその「出羽守」に告ぐ、“Look East!”

### その2: 「瞋」 瞋恚

「瞋恚」とは、「瞋」怒りと憎しみ。しかし上記「欲」同様、その制御はなかなかの難題です。また喜怒哀楽を抑制し過ぎると、人間本来の「感性」そのものを失い、ロボット人間になりかねません。それらをいかに制御し、上手く活用するか、それこそ「人間力」を学び続ける目的です。

因みに私の場合、その発散を「笑い」に求めましたが、それは諸刃の剣。特に長年、序列や規則に固執する先輩たちを好んで「揶揄」してきたため、大小はともかく、その数だけ彼らの「怒り」と「憎しみ」を買ってきました。しかし悪いことに、自分は周囲が「大受け」したものの以外覚えていない。ところが「生まじめ」な相手は、その「屈辱」を決して忘れることなく、恐るべき執念でその報復の機会を待っていたのです。その数多の経験から得たものは、「他人の瞋恚は制御できない」という我が人生最大の教訓でした。(笑)

### 「三々な経営」

E-12 「笑い」の効用

### 「四字熟語」で考える経営戦略

Y-06 「経営理念」を考える・その1

Y-07 「経営理念」を考える・その2

### その3: 「痴」 愚痴

「愚痴」とは、道理にかなっていることと外れていることの区別がつかないこと。「経営」におけるその代表例は、絶えることのない不祥事です。

我が尊師によれば、その大半は、「ルール」変更の無知、無理解が主因。すなわち社会の変化に伴う仕事上の規則や規準の変化を他人事としてとらえ、それに真摯に向き合わないことによって引き起こされるもの。またその当事者たちの言い分は、先輩たちと同じことをしているのに、なぜ自分たちだけが糾弾されるのか。組織というタコツポに入り、外の社会が見えなくなったとき、「愚痴」の種は大量に蒔かれます。そして根本的な土壌改良がなされない限り、その芽が出続けるのです。

さてどんな組織であれ、「貪瞋痴」対策の王道は、「教育」。しかし時代は変わりました。上記の尊師、廣田正氏が活躍した時代と現在の違いは、社会変化の加速と複雑化。もはやお仕着せの「教育」では間に合わず、変化に気づいた人間が主導し、それが意味するものを社会外の人たちと議論し、自分たちとの関わりを探る「共育」が必須になったのです。

その仕掛人となるのは、もちろん皆さんミドル。過去に対処する作業は、それを得意技とする諸先輩に任せ、自分はいまとこれからの変化を見定め、それに対応するための「仕事」に注力しましょう。

今回の総括は、S・ジョブズの「二毒」です。  
“Stay hungry, stay foolish”

2021年7月5日 実空